

甲斐駒ヶ岳 Aフランケ 赤蜘蛛ルート登攀 報告書

日時 : 2010年9月25日(土)~27日(月)

人員 : 谷嶋(L)、迫

形態 : アルパインクライミング

概略ルート : 宇都宮⇄戸台口⇄北沢峠⇄甲斐駒ヶ岳⇄8号目岩小屋⇄Aフランケ赤蜘蛛ルート登攀

当初、黒戸尾根を登り8合目岩小屋まで登る予定であったが、夏休みの反省により、登攀具を背負った状態での長いルート登山は非常に辛く、時間を要する。また、翌日の登攀へも影響することが予想されたため、軟弱にも、戸台口、北沢峠経由で8合目岩小屋へ向かう事とする。

事前の天気予報では、台風の影響のため、甲斐駒山頂では【雪】・・・氷点下という情報も得ていたため、冬用シュラフも検討するが、軽量化を図るため予定通り、夏用ダウンシュラフ+シュラフカバー+上下インナーダウンとした。

2010年9月24日(金)

予定通り、9時に谷嶋さんに迎えに来てもらう。
首都高~中央道を使うか、北関東道~信越道~中央道を使うか悩む。距離的にはほぼ同じ。
しかし、金曜日夜の都内の渋滞、混み具合を考えると、若干遠回りだが、後者に行くこととする。
宇都宮からだ、南アルプスは遠い！北アルプスを通り越して南下していくので、時間がかかる。
結構時間がかかり、2時ころ戸台口駐車場着。
広い駐車場で、車は少ない。冷えるので、焼酎飲んで就寝。



2010年9月25日(土)

バスの始発が6:00のため、5:00起床。ちょっとのんびりしすぎて、4台目のバスにやっと乗れた。
戸台口から、北沢峠まで1300円で、1時間チョットの林道ドライブ・・・ですが、寝てました。
運転手さんがいろいろ、景色の説明をしてくれていたようです。
気温低い。寒い。ジャケットを着込む。
今回は8合目の岩小屋泊まりのため、水を上げないといけないため、各自で水を小屋で補給。
+3.5L(3.5kg)増加・・・ザックは25kg程度に増加。
7:15 北沢峠出発 甲斐駒方向へ向かう人はあまりいないのか、少ない。というか、最後のバスだったので、皆既に出発済み。
今日は、岩小屋までなので、のんびりゆっくりペースで進む。
しかし、重荷であることに変わり無く、次第にシンドクなってくる。
林間中は風もないため、歩いていると暑く、上着を脱ぐ。
9:09 双児山を過ぎると森林限界も近く風が冷たくなる。夜の気温低下が気になりだす。
9:51 駒津峰(2750m)通過、そろそろ、リーダーの調子が悪くなる。。。?
展望が開け正面に甲斐駒が飛び込んでくる。風が強く、雲が早い。
やっぱり山は晴天が一番！！

後方は、甲斐駒；強風が分かります？



今回は、直登ルートは見送った。以前、荷が軽いときに直登ルートを行ったが、空身であれば、ロープも必要なく面白いところだった。まあ中高年の方々も通っているので、難易度はさほど高くないです。が、冬はこちらがメインルートになります。

山頂に近づくにつれて足が重くなる。

山頂直下では、あちこちに霧氷ができています、昨夜の気温の低さが良く分かる。寒い。

風もそこそこ。休むときは風下に入らないと寒いくらい。

山頂直下の乗越しで、左胸に肉離れっぽい痛みを感じた。やばい・・・サンカルでぶら下がったときに痛めたところが再発した。力を入れると痛む。ムムム明日は大丈夫か？！

心配になる。

11:23 甲斐駒ヶ岳山頂 到着

風が強く、雲が早い、展望よろし。明日が期待できる。

しかし、リーダー倒れる・・・不調で、しばし休憩。自分も眠くて休む。でも、寒い。

霧氷（むひょ～～ん）



草履が凍っているのわかります？



12:55 二日間の宿となる、岩小屋到着。山頂からは1時間かからず。

しかし、場所を知っていないと、通り過ぎてしまうでしょう。

山頂から下って約40～50分、テン場になるようなかなか広い、展望の良いエリアになったら、少し行き過ぎ、10mくらい戻ると左側に大きな平たい岩が横たわっている、その下がネグラになります。

今回のような岩小屋泊まりは初めてなのでワクワクでした。

しかし、まだ昼過ぎ。おのおの、のんびりと言うか、寝たりぶらついたりして時間を過ごす。

正面には、地藏岳や北岳などの展望が拓けており、最高のシチュエーションGOODです。

夕方になりだんだん気温が下がってくる。

日が暮れて、気温は・・・3度・・・げ！

寒い。夜は大丈夫なのか。

晩飯のカレーを食して早々に就寝。

寒いと思っていたけど、夏ダウンシュラフ+シュラフカバー+上下インナーダウンで十分だった。快適快適！しかしその快適さが・・・



2010年9月26日（日）

4:00起床

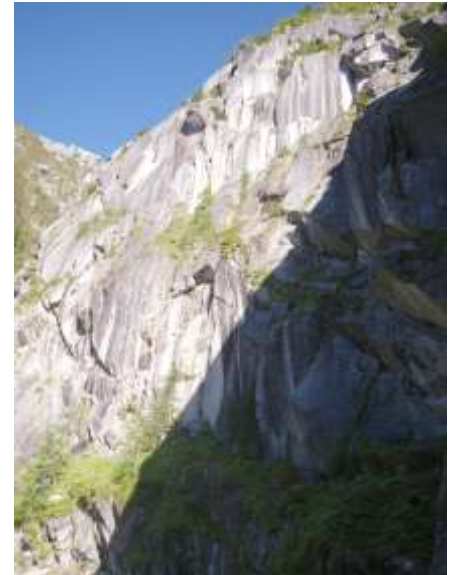
の予定だったが、腕時計のアラームで目覚めることができず・・・

5:00に別のクライマーが岩小屋前をうろうろしている物音に目を覚ます。
あたりはほんのり明るい・・・1時間寝過ごしました。。。。。。
クライマーさんありがとう。

5:00起床 6:30出発。岩小屋から、直接そのまま谷へ踏み跡を伝って下降していく。
途中、残置のロープ箇所など若干迷いながら下降。この下降、結構な曲者です。
大岩の間、隙間を縫うようにして下っていきます。
う～～ん、もう一度きたときに迷わず進めるだろうか。。。

↓取付きからの上方展望

7:30 取り付き点到着 スゴイッス。垂直の壁に囲まれた、
こんな景色、見たことは無い。ここを登る！？
思わず、武者震い・・・チョイト用足し。
水を得るために流水点まで戻り水を確保。
8:10頃 1ピッチ目 迫りリード 岩には久しぶりに触る。
大丈夫か。。一瞬ためらうが、ここまで来たら進むしかないでしょ。最高のシチュエーション。テンションも上がる。2つめの支点が、本にあるように遠い。
手前のクラックにカムで1本取って乗り込むが、ハングしてるので足が奥へ入ってしまい届かない。
が、丁度良い枝が落ちている。いかにも使って下さいと語りかけているよう。。。。後はご想像にお任せします。
テーピングテープと、アブミを使いました。。。。う～～ん。



1ピッチ目 迫りリード
最高の天気、展望、
シチュエーション、GOOD
ハイテンション。

1ピッチ最後にエイリアンがミッシっと言って破損。。ビビッタ、足場もあり、岩にへばりつき事なきを得たが・・・自分で落ち着けと言い聞かせ、終了点へ。
久しぶりのアブミでチョイト時間を食う。
自分達の正面近いところで、今朝起こしてくれたパーティと思える二人が登っている。

2ピッチ目 谷嶋さんリード V級フリー
初めはホールドもステップもあるので、問題なさそうだが、視界から消えてからは、クラック。しかし、手間取ることなく終了点へ着いたようだ。自分も前半はフリーで問題なかったが、クラックに入ってからにはレイバックを試みる。が、昨日の左胸に痛みが走る。
げ・・・仕方なく・・・そう、仕方なく、アブミを使う。。。。クソ～～残念。

2ピッチ目のでだし。





2ピッチ目上から；高度感、展望最高！！

3ピッチ目 迫リード
距離は短いが、展望最高。ハーケンのスリングが腐っていてミシミシ言うので、持参の3mmスリングを追加して、アブミを架けなおす。ヒヤヒヤもんですね。。。ヤッパオカシイですよ。
ハング下2mくらいの位置で終了点。



4ピッチ目 谷嶋さんリード
ハングの向こう側に新しいリングがある。流石、難なく乗越していく、セカンドの自分は、ハングの後の壁が・・・いやらしいムーブを強いられる。う～～ん、もっと練習せねば。壁を越えると、3級位の楽なクライミングとなり、その後、広いバンドのテラスにでる。
ここで、谷嶋、、北村ペアが前回ビバークしたということのようだ。



5ピッチ目 V級フリールートで、迫の番だが、さっきのV級フリーでの左胸の痛みが気になり、残念ながら、谷嶋さんをお願いする。非常にというか、メチャクチャ悔しい。次に来るときは絶対にV級フリー両方ともリードしてやる。と誓いながらビレーする。

リードの谷嶋さん
視線

4ピッチの終了点を見下ろす。
余裕ですね。



5ピッチ目終了点



V級とはいえ、このピッチは自分もリードできるレベルだった。
乗越す手前のスラブがチョイトいやらしいが、特に問題なさそうだった。。。残念。
後の祭り。やっぱりトライはすべきだったか。。。

6ピッチ目 核心 迫リード
遠い箇所もあるが、最上段に乗ったり、
あと5mmというところをアブミを踏み
変えたりと色々試しつつ、結構疲れた
けど、楽しく登れた。
上腕がピクピクです。
写真の右側のクラックを登っている人も
いるようで、今度トライしてみよう。
終了点は、リングボルト3点のハンギング
ビレーでアブミに乗ってのビレーとなる。
この頃から、雲がかなり降りてきて、
なんだか、イヤな空気になって、寒く
なってくる。



セカンドの谷嶋さんをビレーする。



股下からの撮影。

7ピッチ目 谷嶋さんリード 終了点をまたいで、カンテへ向かう。
かなり遠いA1のようだ。途中からミゾレ交じりの雨が降り始める。
ビレー中は絶えず、ガクガクブルブル震えながらのハンギングビレーとなる。寒い。
映画「アイガー北壁」の最後のシーンを思い出す・・・ヤバ・・・
立ち木を回り、終了点へ。ロープのねじれを直す。

8ピッチ目 迫リード 特に難しいところもなく・・・最後の右への一歩が
チョイトいやらしいところがあったが、まあ、何とかフリーを交えて通過する。
立ち木が茂るテラスで、終了点。
この頃から本格的に降ってくる。寒い。暗くなってくる。
5:00 ヘッテンを用意する。また、カッパ上のみを着込む。

9ピッチ目 谷嶋さんリード 草付きのⅡ級程度のところを40mくらい進む。
岩小屋はまだか！ニセ岩小屋を過ぎたところで、ロープを解きコンテとし登山靴に履きか
える。
10分程度で、本物の岩小屋に到着。ザックのデポが2名分ほど置いてあった。
今朝の目ざましクライマーのものだろうか。
ここから、今朝の下降ルートが大岩の間を抜けつつ登っていく。結構しんどい。
暗いため、ルートファインディングに手間取る箇所が何箇所もあった。
朝のクライムダウンである程度、帰るルートを把握しながら下ることが必要だ。
大岩の隙間が深いところもあり、踏み外すと致命傷になりかねない。
普通に登れるが、気を抜けない状況。

7:05 ネグラである、岩小屋到着。 お互いに握手とハグで称えあう。
ちょっと、マジで、感動した。
ガチャ、ハーネスを解き、片付ける。寒い。
濡れたものを着替え、ダウンを着込み一息つく。が、ビバーク用に背負っていたので
ダウンが濡れている・・・ゲ。と言っても仕方がない、着乾しする。寝るまでに乾くかな。
シュラフに下半身もぐりこませ温まる。
コーヒーが美味しい。スープが美味しい。
食事を取る。コーヒーでお互いの健闘を称えつつ乾杯。

9:00 頃、就寝
夜間は、ものすごい風雨で何度か目が覚める。岩小屋内は全く影響はなく快適だが、
明日の山頂への登り返し、下山が気にかかる。
暴風雨の中の下山はカンベン願いたい。回復を願いつつ再度眠りにつく。

2010年9月27日（月）

5:00 起床 今日もしっかり起きることができた。
天気も風、雨共にあがり、回復傾向のようで、安堵する。
6:40 頃 岩小屋発 快適な岩小屋に感謝。 山頂目指し登り返す。
昨日からの疲労も残っていて、ペースが上がらない。まあ、今日のはんびり山行なので
ゆっくりペースで進む。
7:44 山頂直下の鞍部。展望最高。いや、感動もの。ここまで来た人にしか味わえない展望と
感動を味わう。神々しい気分にもなる。

↓ 甲斐駒山頂



後はひたすら北沢峠目指して下る。平日なので人は少ない。。。と思っていた。が。
さにあらず。中高年のパーティーが3、4組、中高年パワーを感じつつすれ違う。
10:49 北沢峠 到着 おつかれさまでした。
長衛荘でソバを頂く。美味しい。暖炉もあり、心地よい。
しかし、バスが13:00・・・それまで、ガチャあわせ、ガチャを乾かしたりして、時間をつぶす。
バスの時間が近づくと申し合わせたように多くの人下山してきた。
バスは2台となる。
14:00 戸台口 到着。
温泉に入り、体を清め、一路宇都宮へ。

今回は、久しぶりの登攀で、しかもアブミ。途中は左胸の肉離れなど不安要素が多々あったが
何とか無事クリアすることができた。谷嶋さん感謝。
次来ることがあれば、V級ピッチは是非フリーでトライしたい。